

# 報告書

第4回JLAシミュレーション審査会

2020年3月  
公益財団法人 日本ライフセービング協会

# 目次

## 1. 概要

## 2. 審査会風景写真

### 1. 所感

# 第4回JLAシミュレーション審査会の概要

## 審査会実施概要

### 1. 実施日・実施場所

2019年12月 1日(日)	福井県若狭和田海水浴場
2019年12月 8日(日)	千葉県夷隅郡御宿町御宿海岸
2019年12月15日(日)	神奈川県葉山町大浜海岸
2019年12月22日(日)	静岡県牧之原市相良サンビーチ

## 想定実施細部

### 1. 想定の概略

係員統括(以下統括)の『想定はじめ』の合図で計測開始とします。

6名態勢で通常の監視業務中に有事が起きてしまった。

他にも遊泳客は存在し、海のコンディションは当日の状況とします。

遊泳禁止等の判断は海浜組合・役場の3者と協議し決定しているため容易に変更できない状況です。

実施者により仮想119通報があり、救急隊要請された場合、後に救急隊が到着します。

統括の『想定終了』の合図によって審査終了とします。

想定に別途変更などあった場合、当日事前説明時に変更点や付加事項など、告知できる範囲で実施チームにお知らせします。

### 2. 実施時間 9分間

### 3. 実施人数 6名 内訳(監視長1名 監視員5名)

### 4. 使用資器材

レスキューボード、レスキューチューブ×2、双眼鏡、パイプ椅子×3、拡声器、AED(訓練用AED、訓練用パット×2)、バックボード、ネックカラー、ヘッドイモビライザー、傷病者記録票(バインダー含む)、ディスプレイグローブ×100、詰所テント、トランシーバー×4基(仮想消防含む)、はさみ、滅菌精製水の入ったボトル、お湯の入ったボトル、氷のう×1、毛布、雑誌、ひも、傘。

※JLAが用意する使用資器材に不足を感じた実施チームは、普段パトロールに使用している資器材を持ち込み可能とします。タイムテーブルに支障をきたさない範囲(浜に侵入後3分以内)で準備してください。

### 5. 審査項目【審査表は当日審査員に配付】

- ① 継続監視要領
- ② 的確な観察要領
- ③ 監視委員連携要領
- ④ 救急隊への引き継ぎ要領
- ⑤ 観衆への対応要領
- ⑥ 監視長の指揮要領
- ⑦ 資器材の適正な取扱い要領
- ⑧ 周囲状況を考慮した対応要領
- ⑨ 接遇要領
- ⑩ 関係者の対応要領
- ⑪ 観察・救護要領

# 第4回JLAシミュレーション審査会の概要

## 【審査会の趣旨】

ライフセーバーの海水浴場監視活動中に発生するあらゆる水難事故を想定し、溺水者や傷病者を早期に発見し、迅速で的確な一次救命処置から救急隊及び医療機関へ引き継ぐまでの連携技能を高めることで、溺水者、傷病者の社会復帰を確実にする。

## 【審査会の目的】

監視業務継続中、有事の対応及び医療機関まで『命をリレーする一員』として、連携能力向上を目的とする。

# 第4回 J L A シミュレーション審査会の概要

## 想定 2

各チームの事前トレーニングのために予め想定を公表しますが、一部をブラインドとします。ブラインド部分について各チーム想定し、技能及び連携能力向上に活かしてください。

時間	項目	備考
0分	監視員（以下LS）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始	
想定開始後 0秒後スタート 本部前波打ち際 から	監視本部目の前の波打ち際から、関係者友人A（年齢実年齢、会社員、関康人（やすと）若しくは康子（やすこ））に肩を貸してもらいながら、びっこを引き、『何かに足の甲を挟（はさ）まれた』『痛い…』と訴え、監視本部内に侵入してくる。傷病者（年齢実年齢、自営業、小林典夫（のりお）若しくは典子（のりこ））。水深30cm位の波打ち際で激痛を覚える。時間経過とともに痛みが増し、座ってもいられなくなる。 想定のおねらい：受傷原因はアカエイ刺傷によるアナフィラキシーショックを理解し適切な処置ができるか 想定の流れと説明：アカエイ刺傷では、たんぱく質毒のため40℃程度のお湯に浸さない限り痛みが治まらない。 傷病者本人は何が起きたのかアカエイ自体を視認していないので原因がわかっていない。 受傷部位が足の足底で痛みが増してくる。刺入部には発赤をともなう傷がある。 毒針による穿通時は挟まれたような感覚もある。 湯に浸けて痛みを軽減する処置ができるか判断が必要である。 バイタル：意識清明、その他実測通り、容態変化は温める行為が監視本部着3分以内に無いとのたうち 回るほど痛みが増す。	
想定開始後 45秒後スタート 海の家から駆け 寄ってくる	海の家から駆け寄ってくる監視本部から150m程度離れた海の家（菊水）内のシャワー室で人が倒れていると通報を受ける。 通報者は、海の家（菊水）の従業員（年齢実年齢、バイト、佐伯修司（さえきしゅうじ）若しくは修子（なおこ））。シャワー室で倒れているのを発見し、監視本部に来たが、いつから倒れていたか、前後の状況は全く分かっていない。 傷病者（年齢実年齢、アパレル経営役員、永山満（みつる）若しくは満江（みつえ））。海の家 菊水内シャワー室。側臥位 傷病者バイタル：（生体中川委員） LS接触後1分で連続3回 胃内容物逆流 飯類大量に準備、その後に、意識レベル300）死戦期呼吸に移行（LS接触後2分間、補助呼吸実施していたら3分以降は呼吸なし）、上記状況以外は見たまま、外傷無し。（皮膚が赤い等はムラージュで表現負荷想定は傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する。） 訓練用AEDにより、解析開始、ショック その後レベル300、呼吸無し、脈総頸触れず、外傷無し  関係者友人Bは、LSが海の家に来た時に現れる。慌てており、LS接触後30秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、荷物を取りに駐車場行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到1分後まで戻ってこなくなる。駐車場に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（年齢実年齢、アパレル経営役員、永山満（みつる）若しくは満江（みつえ））、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答090-7000-5762、住所は回答できない品川区とだけ回答。 関係者（友人）からの情報は、浜辺で遊んでいたが、傷病者は気分が悪い、足がつったと一人で海の家に戻ったところまで知っている。20分前の出来事。 関係者（友人）は救急車に同乗可能（駐車場自家用車はどうすれば…） 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。	
想定開始5分後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）	
想定開始7分後	A隊長指示で、搬送開始 それまではA隊は観察継続	
想定開始9分後	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了	



# 第4回 J L A シミュレーション審査会の概要

## 想定 3

各チームの事前トレーニングのために予め想定を公表しますが、一部をブラインドとします。ブラインド部分について各チーム想定し、技能及び連携能力向上に活かしてください。

時間	項目	備考
0分	監視員（以下LS）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始	
想定開始後 0秒後スタート 本部前波打ち際 から	監視本部目の前の波打ち際から、傷病者(年齢実年齢、自営業、小野典夫(のりお)若しくは典子(のりこ))。浜で硬球を使ってキャッチボールをしていたところ、右上肢中指と薬指の間に硬球が直撃し、同手掌部位が4cm裂創したもの。友人など付き付き添いは無し。自力歩行で監視本部に来るも、激しい痛みと出血が著しい状態で苦悶の表情。 ブラインド想定：氏名などの人定以外はなし。所持品などは海の家にある。付き添いは来ない。	
想定開始後 45秒後スタート 海の家から駆け 寄ってくる	想定3のねらい 水上バイク陸上搬送中に固定具がはずれて右下腿に落下する想定 出血性ショックと神経原性ショックを鑑別できる。 想定のがれ 監視本部から150m程度離れた海の家(一品香(いっぴんこう))裏の高台から人が落ちて、骨折したようだ通報を受ける。 通報者にとっては、海の家(一品香)の従業員(年齢実年齢、バイト、雲藤修司(うんどうしゅうじ)若しくは修子(なおこ)。海の家裏で人が集まり騒いでいたことから傷病者がいることを認知した。監視本部に来たが、いつから倒れていたか、前後の状況は全く分かっていない。 傷病者(年齢実年齢、会社役員、日高 満(みつる)若しくは満江(みつえ)。海の家一品香裏のスロープから水上バイクを陸揚げしていたところ、水上バイクが台車から脱落し、右下腿が下敷きになり、右下腿が変形損傷しているもの。この時日高満は水上バイクを後ろから押していた。 主訴：右下腿の変形と痛み、後頭部を打撲、頭皮から微出血擦過傷軽度の痛み、右下腿の痛みがひどく自力歩行困難。側臥位。足の上に載っていた水上バイクは関係者が移動して現場には無くなっていた。 傷病者バイタル：(生体中川委員、意識レベル清明だが激しい痛みのため質問にほぼ答えない。水上バイクの脱落事故とだけ話すことができる。 観察所見：顔面蒼白、橈骨動脈蝕知せず、徐脈をともない、四肢末梢の皮膚は冷たく、冷汗、呼吸は浅くはやい・回数実測、脈は徐脈とするが実測。 上記状況以外は見たまま。(負荷想定は傷病者の胸部に付加想定項目を表記する。 処置：下腿の固定(身の回りの機材で)とショック体位、ABCの繰り返しの確認、保温 救急隊への引継ぎが適正に行う  関係者友人Aは、LSが海の家に来た時に現れる。慌てており、LS接触後30秒間は傷病者に『どこが痛い？首痛くないか？大丈夫だから！』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、荷物を取りに駐車場行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到1分後まで戻ってこなくなる。 駐車場に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前 (年齢実年齢、アパレル経営役員、日高満(みつる)若しくは満江(みつえ))、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答090-7000-5762、住所は回答できない鎌倉市材木座とだけ回答。 関係者(友人)からの情報は、海の家(一品香)裏のスロープから水上バイクをバギーでけん引し陸揚げしていたところ、水上バイクが台車から脱落し、慌てて後ろを見に行ったら日高満の右下腿が下敷きになっていたのもので、周囲の観衆に手伝ってもらい水上バイクを台車に戻し、日高満を観衆に任せて、水上バイクを駐車場までけん引して戻ったところ。事故は20分前の出来事。 関係者(友人)は救急車に同乗可能(駐車場自家用車はどうすれば…) 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。	
想定開始5分後	救急隊砂浜に到着(革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック)	
想定開始7分後	A隊長指示で、搬送開始 それまではA隊は観察継続	
想定開始9分後	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了	

# 第4回JLAシミュレーション審査会の概要

2019年12月1日(日)福井県若狭和田会場 当日タイムテーブル

時間	項目	備考
07:50	エキストラ集合	
08:00	係員集合 エキストラ説明会開始	
08:30	審査員説明開始	
09:00	審査員・エキストラ説明終了 実施チーム受付開始	
09:50	全実施チーム代表者本部テント前集合 開会式に伴い集合	
10:00	<p>初めの挨拶 日本ライフセービングクラブ 入谷 拓哉 理事長</p> <p>ご挨拶 第八管区海上保安本部 次長 江口 満 (えぐちみつる) 様</p> <p>ご挨拶 若狭消防組合 高浜分署長 田中 正人 (たなかまさと) 様</p> <p>紹介 MD 厚生労働省関東信越厚生局医療課医療監視員 医師 吉澤 大 先生</p> <p>紹介 審査員 小浜海上保安署次長 榎田 雄介 (えのきだゆうすけ) 様</p> <p>紹介 審査員 若狭消防組合 高浜分署 鯛家 宏紀 (たいかひろき) 様</p> <p>紹介 審査員 小浜警察署 高浜警部交番 藤原 正諭 (ふじわらまさつぐ) 様</p> <p>紹介 エキストラ 若狭消防組合 高浜分署</p> <p>救助隊 上野 雅章 (うえのまさあき) 様</p> <p>前田 拓馬 (まえだたくま) 様</p> <p>岡本 晃 (おかもところ) 様</p> <p>※出動要請があった場合</p> <p>(待機) 岡村 翔大 (おかむらしょうた) 様</p> <p>大谷 奎太 (おおたにけいた) 様</p> <p>佐藤 夏輝 (さとうなつき) 様</p> <p>事務連絡及び補足説明</p>	
10:30	第1回目実施 明治国際医療大学ライフセービングクラブ	
10:45	第2回目実施 若狭和田ライフセービングクラブ	
11:00	第3回目実施 鳥取大学発ライフセービングクラブ	
11:30	各公的救助機関、MD、審査長 講評 表彰 事務連絡	
12:05	<p>■実施チーム 撤収は審査員以外協力</p> <p>本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 解散</p>	
12:30	■事務連絡 全係員解散	

# 第4回JLAシミュレーション審査会の概要

2019年12月8日(日)千葉県御宿会場 当日タイムテーブル

時間	項目	備考
07:50	エキストラ集合	
08:00	係員集合 エキストラ説明会開始	
08:30	審査員説明開始	
09:00	審査員・エキストラ説明終了 実施チーム受付開始	
09:50	全実施チーム代表者本部テント前集合 開会式に伴い集合	
10:00	<p>主催者挨拶 日本ライフセービング協会 石川 仁憲 常務理事                      ご挨拶 御宿町長 石田義廣 様</p> <p>紹介 審査員 MD 君津中央病院 救命救急センター長 北村伸哉 先生                      紹介 審査員 御宿町 産業観光課 班長 永島哲 (ながしまさとし) 様                      紹介 審査員 勝浦海上保安署 次長 福島和之 (ふくしまかずゆき) 様                      紹介 講評者 夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部                      御宿分署長 本田博一 (ほんだひろかず) 様                      審査員 夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部                      大多喜分署 篠田智哉 (しのだともや) 様                      救急隊エキストラ 御宿分署 遠藤真二 (えんどうしんじ) 様                      救急隊エキストラ 御宿分署 鶴岡貴之 (つるおかたかゆき) 様                      救急隊エキストラ 御宿分署 高梨潤一 (たかなしじゅんいち) 様</p> <p>紹介 審査員 スーパーバイザー 飯沼誠司                      事務連絡及び補足説明</p>	
10:30	第1回目実施 九十九里ライフセービングクラブ片貝チーム	
10:45	第2回目実施 九十九里ライフセービングクラブ成東チーム	
11:00	第3回目実施 九十九里ライフセービングクラブ天津チーム	
11:15	第4回目実施 鹿島ライフガードチーム	
11:30	第5回目実施 御宿ライフセービングクラブ浜海岸	
11:45	第6回目実施 九十九里ライフセービングクラブ蓮沼チーム	
12:00	審査員 昼食	
13:00	第7回目実施 九十九里ライフセービングクラブ富浦チーム	
13:15	第8回目実施 御宿ライフセービングクラブ中央海岸	
13:45	各公的救助機関、MD、審査長 講評 表彰 事務連絡	
14:15	<p>■実施チーム 撤収は審査員以外協力                      本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 解散</p>	
14:45	■事務連絡 全係員解散	



# 第4回JLAシミュレーション審査会の概要

2019年12月15日(日)神奈川県葉山会場 当日タイムテーブル

時間	項目	備考
07:00	係員集合 会場設営開始	
08:00	会場設営完了 エキストラ説明会開始	
08:30	エキストラ説明完了 審査員説明開始	
08:50	審査員説明終了 実施チーム受付開始	
09:50	全実施チーム代表者本部テント前集合 開会式に伴い集合	
09:30	主催者挨拶 日本ライフセービング協会 入谷拓哉 理事長 ご挨拶 葉山町長 山梨崇仁(やまなしたかひと)様 ご挨拶 三管区海上保安本部 警備救難部 救難課長 寺門嘉之(てらかどよしゆき)様 紹介 審査員 スーパーバイザー 小峯 力 審査員 スーパーバイザー 足立正俊 紹介 審査員 MD 国土舘大学大学院 救急システム研究科 教授 田中秀治 先生 紹介 審査員 MD 岸和田徳洲会病院 救命救急センター長 鍛冶有登 先生 紹介 審査員 MD 厚生労働省関東信越厚生局医療課医療監視員 医師 吉澤 大 先生 紹介 審査員 横須賀海上保安部 警備救難課長 吉田憲明(よしだのりあき)様 紹介 審査員 葉山町消防本部 隊長補佐行谷彰浩(なめがやあきひろ)様 救急隊エキストラ 葉山町消防本部(カ)海藤善之(かいとうよしゆき)様 救急隊エキストラ 東京消防庁 LSC 本多辰也 さん 救急隊エキストラ 東京消防庁 LSC 後関裕輔 さん 救急隊エキストラ 東京消防庁 LSC 玉井 颯 さん 救急隊エキストラ 東京消防庁 LSC 忠 潤基 さん 救急隊エキストラ 東京消防庁 LSC 佐藤礼奈 さん 救急隊エキストラ 東京消防庁 LSC 浅野 響 さん 紹介 国土舘大学防災・救急救助総合研究所 救急救命士 谷川真莉菜 様 紹介 中央大学理工学部 人間総合理工学科 助教 救急救命士 勾坂量(さぎさかりょう) 様 事務連絡及び補足説明	
10:00	第1回目実施 辻堂ライフセービングクラブ	
10:15	第2回目実施 大洗サーフライフセービングクラブ	
10:30	第3回目実施 九十九里ライフセービングクラブ鋸南チーム	
10:45	第4回目実施 湯河原ライフセービングクラブ	
11:00	第5回目実施 館山サーフクラブ	
11:15	第6回目実施 銚子ライフセービングクラブ	
11:30	第7回目実施 波崎サーフライフセービングクラブ	
11:45	第8回目実施 常陸サーフライフセービングクラブ	
12:00	第9回目実施 西浜サーフライフセービングクラブ	
12:15	審査員 昼食	
13:15	第10回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブAチーム	
13:30	第11回目実施 逗子サーフライフセービングクラブ	
13:45	第12回目実施 葉山ライフセービングクラブ	
14:00	第13回目実施 湘南ひらつかライフセービングクラブ	
14:30	各公的救助機関、MD、審査長 講評 表彰 事務連絡	
15:00	■実施チーム 撤収は審査員以外協力 本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 解散	
15:45	■事務連絡 全係員解散	

# 第4回JLAシミュレーション審査会の概要

2019年12月22日(日)静岡県相良サンビーチ会場 当日タイムテーブル

時間	項目	備考
07:50	エキストラ集合	
08:00	係員集合 エキストラ説明会開始	
08:30	審査員説明開始	
09:00	審査員・エキストラ説明終了 実施チーム受付開始	
09:50	全実施チーム代表者本部テント前集合 開会式に伴い集合	
10:00	主催者挨拶 日本ライフセービング協会 中見隆男 スーパーバイザー 紹介 審査員 MD 南多摩病院 統括外科部長 朽方規喜 先生 紹介 審査員 御前崎海上保安署長 小岩井直 (こいわいなおし) 様 紹介 審査員 静岡市消防局 牧之原消防署 森田敬之 (もりたたかゆき) 様 救急隊エキストラ (〃)救急隊隊長 眞鍋知義 (まなべともよし) 様 救急隊エキストラ (〃) 永田真子 (ながたまこ) 様 救急隊エキストラ (〃) 鈴木拓哉 (すずきたくや) 様 事務連絡及び補足説明	
10:30	第1回目実施 熱川ライフセービングクラブ	
10:45	第2回目実施 御浜ライフセービングクラブ	
11:00	第3回目実施 東海大学ライフセービングクラブLOCO	
11:15	第4回目実施 静波ライフセービングクラブ	
11:30	第5回目実施 相良サーフライフセービングクラブ	
11:45	第6回目実施 下田ライフセービングクラブ	
12:00	第7回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブBチーム	
12:30	各公的救助機関、MD、審査長 講評 表彰 事務連絡	
13:00	■実施チーム 撤収は審査員以外協力 本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 解散	
13:45	■事務連絡 全係員解散	



# 第4回 J L A シミュレーション審査会の概要

## 会場図





# 第4回 J L A シミュレーション審査会の概要

## 会場図

### 第4回 シミュレーション審査会【神奈川県立葉山公園】会場レイアウト



### 第4回 シミュレーション審査会【静岡県相良サンビーチ】会場レイアウト







2019年12月1日(日)福井県若狭和田会場



2019年12月8日(日)千葉県御宿会場



2019年12月15日(日)神奈川県葉山会場



2019年12月22日(日)静岡県相良サンビーチ会場





砂に線を引き、観衆の進入の抑止力にしている。この発想はエキストラにとって影響ある効果ある行動であった。

多くの公的救助機関に協力して頂いたことによって、講評含め多くの教示があった。

今回は、4か所実施中開催初めての場所が3か所と、あたらな支援消防行政様と顔の見える関係となれた。

この事は海水浴場シーズンの有事の際には、水辺利用者にとって有益となります。



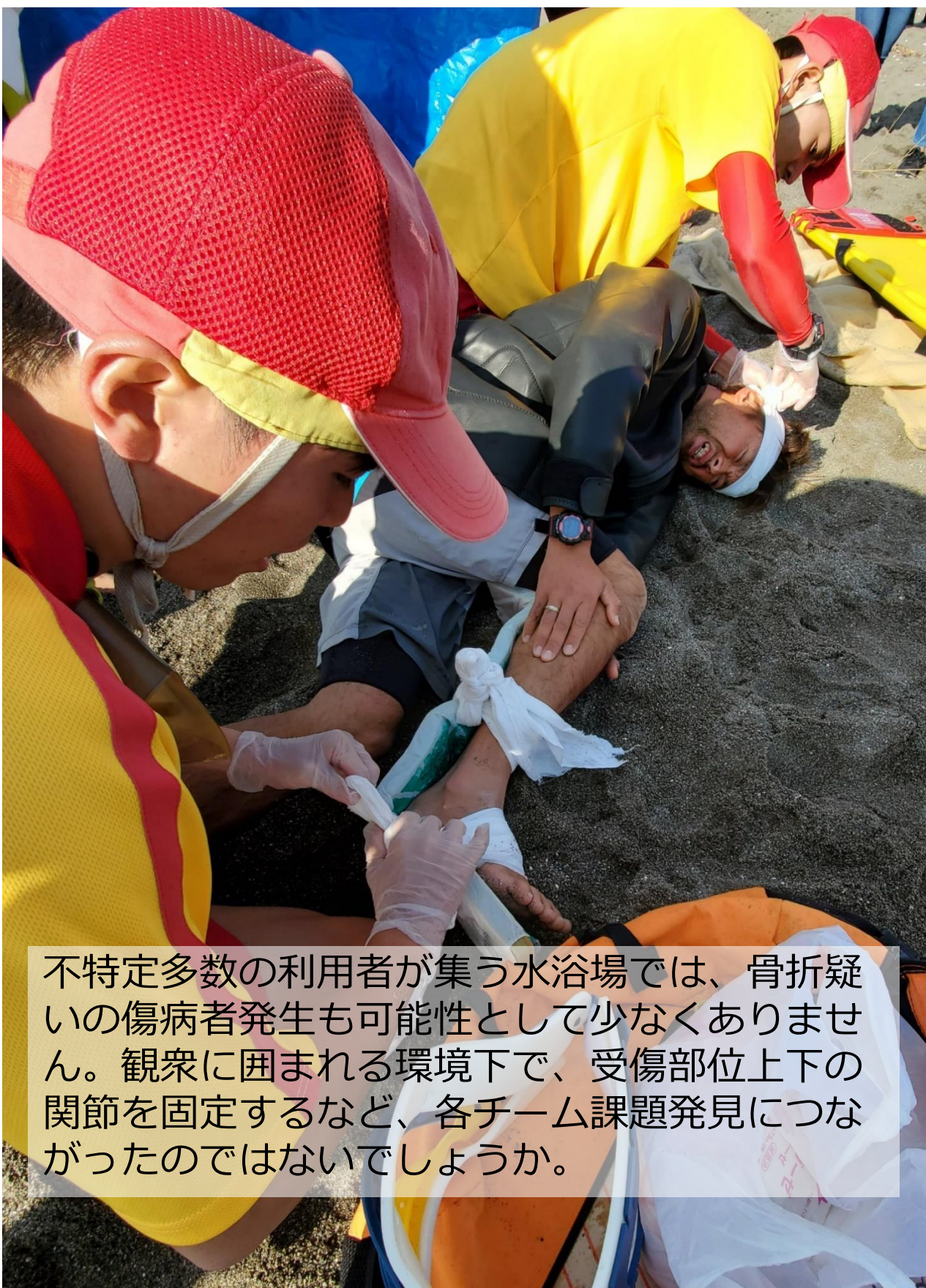
受傷した場合など非現実的な状況下では、関係者にとって心穏やかでいられない。不安な心境の中、接遇の仕方、声のかけ方で『不安』という気持ちに対して寄り添えます。心を救える接遇と考えます。



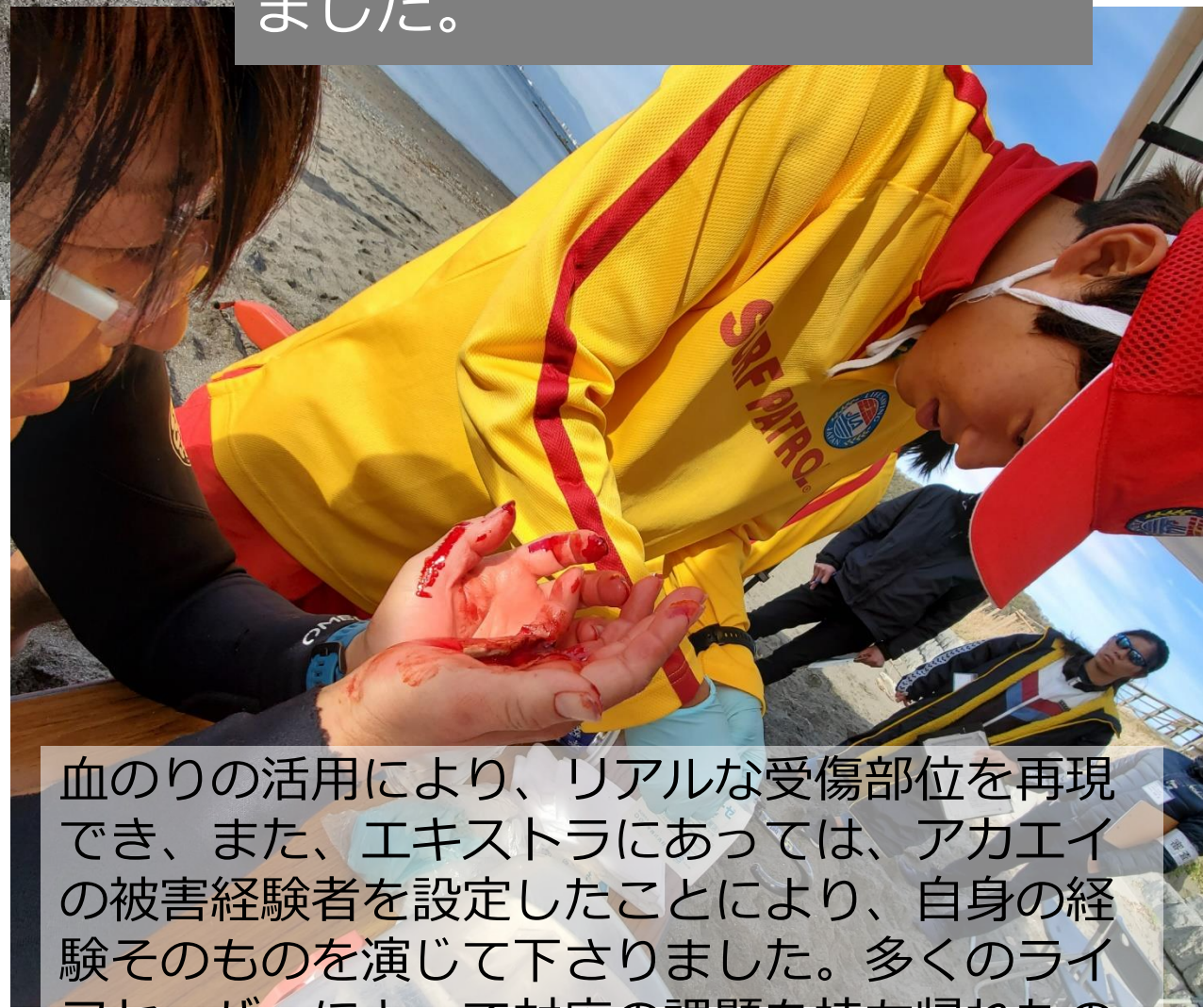




実施チーム・エキストラ・審査員・係員ともに本番さながらに実施することで、検討事項や推奨事項が発見でき、今後の活動に活かすことができました。



不特定多数の利用者が集う水浴場では、骨折疑いの傷病者発生も可能性として少なくありません。観衆に囲まれる環境下で、受傷部位上下の関節を固定するなど、各チーム課題発見につながったのではないのでしょうか。



血のりの活用により、リアルな受傷部位を再現でき、また、エキストラにあっては、アカエイの被害経験者を設定したことにより、自身の経験そのものを演じて下さりました。多くのライフセーバーにとって対応の課題を持ち帰れたのではないのでしょうか。







救急隊は、概ね3名で様々な器材を現場まで運び、砂地という足場の不安定は活動環境となります。

メインストレッチャーでの搬送に、ライフセーバーがいかにサポートできるか、引き継ぐ相手の求めていることに応じていけるよう錬成継続が必要となります。



傷病者記録票を活用した聴取記述内容に各チーム大きな差異がありました。普段からトレーニングで使用することが、有事の際に活かされます。



審査員の方々。審査する側の眼差しも真剣そのものです。ライフセービング活動は、事故未然防止が大前提ですが、毎年、起きる水難事象に対し、医療機関まで早期搬送し、社会復帰を確実にものにすることが、我々の挑戦できることと考えます。皆さんと共に向上出来たらと望んでいます。

記付用 傷病者等記録票 現在月日 平成 年 月 日

氏名	長谷川 太郎	性別	男	電話番号	090-7637-5762
住所	千葉県市川市	生年月日	不明	氏名	不明
既往歴等	不明	病名・診断名	不明	救急車同乗者	不明
その他記述欄	11:51 救急隊到着 11:50 救急				
事故発生場所	ライフセービング				
観察開始時刻	12:03	JCS意識レベル	不明	RR呼吸	不明
事故発生時刻	11:40	HR脈拍	不明	BP血圧	不明
		EAR人工呼吸実施	有	AEDショック回数	1回
		CPR開始時刻	12:03	BT体温	不明

その他記述欄: AED 3回 - 1回20分

事故発生場所: ライフセービング

観察開始時刻: 12:03

事故発生時刻: 11:40

目撃 有・無

CPR開始時刻: 12:03

人工呼吸実施 有・無

ショック回数

回実施

特定非営利活動法人 日本ライフセービング協会





どの地域でも、実施後に各チーム反省確認を自主的に行っているのを目にしました。直後に確認し、今後の活動に反映させる。とても効果的だと思います。誰かに指摘されることも有益ですが、実際に行動した実施者間のデブリーフィングは、最も効果的な次につながる方策と考えます。自主的に集まって話し合っている姿に、熱いものがこみ上げると同時に、安心感を強く感じるものでした。





海の家の中での想定。この事は海水浴場で起こりえる想定であり、また、飲酒している浴客が多くいる観衆下での活動が、再現できたと考えます。

この事は各海水浴場での課題ではあるものの、実際に起こり得た場合の対処をより現実的に課題として持ち帰れたのではないのでしょうか。

その他、『傷病者記録票』の取扱いによって、救急隊到着後も聴取継続し、救急隊に情報を早期に引き継ぎ、他の行動に移れないなど課題も見えた。  
バックボードのストラップ固定に大きく時間が掛かり、救急隊長が搬送開始と言ってから120秒近く時間を要すなど、より具体的な課題があきらかになりました。



全実施チーム31チーム  
実施者186名 係員116名 見学者約200名

合計約510名

多くの参加者のもと実施された第4回JLAシミュレーション審査会は、今後大きなイベントとして飛躍する可能性を確信しています。

閉会式では、各機関からの貴重な講評があり、ライフセーバーが公的救助機関到着前や、到着した後、どんな行動・準備をすることが、早期搬送に寄与できるかご教授頂きました。この事は国内の水辺の安全管理に大きく影響されると考えます。

株式会社フィリップス・ジャパン様にご協賛頂いたAED及びAEDパットが充実していたことにより、多くのライフセーバーにとって、全国に水辺利用者にとって、より高度な公的救助機関との連携や技術の向上出来る機会となったと深く感謝しています。



# 【所感】

先ずは第4回目の審査会に参加して下さった多くの皆様に感謝いたします。

今年度の審査会は全国4カ所、その内、初めて実施した若狭和田、御宿、相良がありました。各地域の消防行政、各県庁、支援して下さった企業様、地域のライフセービングクラブ様からのご支援、ご協力がなかったら成り立たなかったと痛感し、深く感謝申し上げます。

JLAシミュレーション審査会は今後も引き続き、数多くの地域で実施していきたいと希望しています。

## 【効果として】

1. 各地域の消防行政と親睦を深め、相互理解を得ることにより有事対応に連携が図れる。
2. 実施チームの感じる緊張感は、実災害のそれに近い状態を作り出せ、そこで得た検討推奨事項は、今後の活動に反映させる事ができる。
3. 多くの参加者によってマスメディアへの注目度が高まり、社会的にライフセーバーの活動実態が広報される。
4. 他浜の活動実態を見学することから、使用資器材や連携技能、公的救助機関との引継ぎや連携行動の確認が可能となる。
5. 各公的救助機関からの講評を頂いたことにより、我々が引き継ぐ相手が、どんなことを求めているのか知り、今後の活動に反映できる。

各公的救助機関には、我々ライフセーバーの普段の対応を知ってもらえる機会になり、グランドデザイン2061に掲げている、公的救助機関との連携強化の第一歩となったと強く確信しています。

各審査会実施地域で、実施後の振り返りを現地で行っているチームや、クラブごとに、この冬に間に振り返りの検証会などを行っているを見聞きしています。

このことについて、自身のライフセービング活動に向き合う向上心の高さに感銘しております。

実施者が入れ替わり、同じ想定を複数回実施することで、検討推奨事項を目の当たりにすることができる。一同に集まりシミュレーション審査会を実施することは、実施者、審査員、係員、エキストラのすべての方々にとって、多くの気づきがあり、ホームビーチで活かせる術を持ち帰れたのではないのでしょうか。

最後になりますが、地域クラブから選抜された審査員の【検討推奨事項】は、各浜で長い歴史ある監視業務を先人から受け継ぎ、今日まで多くの経験に基づいて構築された貴重な物ととらえています。

第4回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項に示した『エキストラ所感』『審査員所感』は審査員などから取りまとめた【検討推奨事項】となりますので、『メディカルダイレクター所感』と同様、熟読して頂き、今後のパトロールに活かして頂くことが、審査会の根幹であり、運営側から切望するところであります。

今後も、皆さんと一緒に審査会の運営自体も検討し、大きな効果を得られるようご協力のほど宜しくお願い致します。

公益財団法人 日本ライフセービング協会  
溺水防止救助救命本部

第4回JLAシミュレーション審査会 実行委員長 菊地太